

# 新しい挑戦～「霊における会話」

## シノダリティの体験

### 霊における会話

シノダ的教会における識別のダイナミズム



沈黙、祈り、  
みことばに耳を傾け

#### 「発言し、耳を傾け」

各自、順番に、自分の体験と祈りについて語り、他者の発言に注意深く耳を傾ける。

#### 個人の準備



#### 「他者と神のために スペースを開いて」

他者が語ったことから、各自、もっとも響いたこと、また自分の中でもっとも抵抗を感じたことを分かち合い、その際、聖霊の促しに自らをゆだねる。「聞いていて、いつわたしの心は燃えていたか」

沈黙と  
祈り



沈黙と  
祈り

#### 「ともに形づくって」

わたしたちはともに、霊における会話の成果を識別し、まとめるために、先に現れたことを基礎として会話する。つまり、直感と意見の一致を評価し、不協和音・障害・新たな問いを特定し、預言者の声が現れてくるのに任せる。重要なことは、その作業の成果物によって自分の声が反映されている、とあらゆる人が感じられること。「聖霊は、わたしたちをともに、どの段階へと招いているか」



#### 感謝のための 終わりの祈り

◀この図はシノダ事務局が作成して解説文に掲載したもので、「霊における会話」を分かりやすく説明したものです。3つの段階で進められるものです。最初に祈りがあります。聖書から祈りのテーマが示されることがありますが、必ずそうとは限りません。

つまり基本的な進め方がありますが、応用したり部分的に変更したりすることは構わないということです。分かち合いは、参加者が同じ時間（3分とか5分など）で話します。短かすぎることは避けてほしいことです。

#### 【第一段階】

私の思い、意見を分かち合います。祈りの中で受け取った神さまからの思いを分かち合います。いわば、「私は＝I」を語ります。

#### 【第二段階】

第一段階で他のメンバーが分かち合った内容について、特にピンときたこと、大きな違和感を覚えたことについて分かち合います。「あなた＝YOU」について分かち合います。

#### 【第三段階】

「私たち＝WE」を探る分かち合いになります。参加している人たちが共通の方向性や取り組みたいものを探る分かち合いです。誰も排除されない、参加者の思いを尊重するまとめを作成する段階です。

誰の意見が優先されるとか、参加者が特定の意見になびくように誘導されるときではなく、みんなで神さまの思いを選び取っていくということが最終的に目指されることとなります。

応用して構わないとともに、この祈りと分かち合いの構造が、シノダ的教会の意思決定方法だということなのです。

教会でも一般の集団でも、決定方法は、責任者の役割であったり、民主主義的な多数決であったりするのが普通です。「ともに歩む教会」として、シノダスが採用した決定方法は、聖霊の導きを皆で祈り、分かち合い、共同で識別するという内容になっています。いろいろな応用が可能ですし、バチカンのシノダ事務局は、工夫することを推奨しています。

(文 シノダ担当チーム 吉村信夫)

### 霊における会話の進め方



6  
2024

発行所  
大阪市中央区玉造2-24-22  
カトリック大阪高松大司教区  
広報委員会  
郵便番号 540-0004  
TEL (06) 6941-9700(代表)  
TEL (06) 6946-3223(直通)  
FAX (06) 6946-3224(直通)  
E-mail: jho@osaka.catholic.jp  
編集 広報委員会  
発行人 前田万葉

本紙  
「点訳版」「音訳」  
あります。〈無料〉  
※ご希望の場合は  
下記まで申込み  
「点訳版(点字本)」  
教区報 ☎06-6946-3223(直通)  
☎06-6946-3224(直通)  
「音訳(テープ・ディジー)」  
山口さん ☎0798-34-4228

☆ アド・リミナローマ訪問  
☆ 終身助祭について  
☆ 司牧者からこの一冊  
☆ 夙川教会 聖信式  
☆ 広報委員会へのEメールアドレス=jho@osaka.catholic.jp

☆ フィリピン総領事館出張サービス香川  
☆ イスラエル現地から報告  
☆ カテキズムの学び  
☆ 小林聖心女子学院創立100周年記念  
☆ 3面 (2面) (4面) (3面) (5面)  
『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

### アサンプション国際創立70周年 引き継がれる絆は未来へ

学校法人聖母被昇天学院は4月30日に創立70周年を迎え、プラチナジュビリーの祝典を執り行った。式典は、本学院小学校児童・中学校高等学校の生徒をはじめ、来賓併せて1070人が参加した。

第1部の記念感謝ミサでは、神父様をお招きしてこれまで70年の歴史に感謝し、この先の未来に向けての祈りをささげた。第2部の記念式典では、来賓の皆さまのごあいさつの後、小学校バトン部、5年生有志によるソーラン節、中学・高等学校からはダンス部、フランス語部によるパフォーマンスが披露された。舞台上で頑張っている仲間たちを会場全体で応援し、大きな声に包まれた。

来賓の皆さまはじめ、修道会から管区長やアサンプションコミュニケーションのシスターたち、アサンプションンカレッジの学長、同窓生や旧教員まで、特別な日に全員が集まり、ワン・アサンプションの家族として共に祝いすることができました。これが70年の標語にもなった「One Assumption Together - for a better world」です。

来賓の皆さまはじめ、修道会から管区長やアサンプションコミュニケーションのシスターたち、アサンプションンカレッジの学長、同窓生や旧教員まで、特別な日に全員が集まり、ワン・アサンプションの家族として共に祝いすることができました。これが70年の標語にもなった「One Assumption Together - for a better world」です。

来賓の皆さまはじめ、修道会から管区長やアサンプションコミュニケーションのシスターたち、アサンプションンカレッジの学長、同窓生や旧教員まで、特別な日に全員が集まり、ワン・アサンプションの家族として共に祝いすることができました。これが70年の標語にもなった「One Assumption Together - for a better world」です。

来賓の皆さまはじめ、修道会から管区長やアサンプションコミュニケーションのシスターたち、アサンプションンカレッジの学長、同窓生や旧教員まで、特別な日に全員が集まり、ワン・アサンプションの家族として共に祝いすることができました。これが70年の標語にもなった「One Assumption Together - for a better world」です。

来賓の皆さまはじめ、修道会から管区長やアサンプションコミュニケーションのシスターたち、アサンプションンカレッジの学長、同窓生や旧教員まで、特別な日に全員が集まり、ワン・アサンプションの家族として共に祝いすることができました。これが70年の標語にもなった「One Assumption Together - for a better world」です。



全校生徒が参加したミサ・式典 (箕面市立文化芸能劇場)

【主催者】  
本日のセレモニーを通して



校舎正面

(文) 学校法人聖母被昇天学院  
法人事務局 広報課)



『ソーラン節』  
小学5年生有志



『フランス語劇』▷  
中学・高等学校



# 終身助祭制度について

司祭不足に対処するため1994年に司教総会でこの制度の導入及び実施が決定された。旧大阪教区では導入していないが、旧高松教区で助祭として司牧している西川康廣終身助祭に制度の概要についてお聞きした。



西川康廣 終身助祭

**日本における終身助祭制度 導入の経緯**  
本件は20年以上にわたって検討されてきたが、1994年度定例司教総会において、満場一致で日本の教会に「終身助祭制度」の導入及びその実施を決定した。1998年6月、白柳誠一枢機卿が定例司教総会で報告し、同年10月に教皇庁福音宣教省から認定通

2004年、溝部脩司教が高松教区に着座し、教区で働く司祭不足に対処するために、司祭評議会・宣教司牧評議会にて終身助祭制度導入検討会が始まり、2007年3月に高松教区における最初の終身助祭が

## 高松教区への導入

知が届き、1999年2月の臨時司教総会で「終身助祭制度導入の対応に関する件」が話し合われた。結果は、各教区での自主的対応に委ねることになり、申し合わせるべき事項が生じた場合は、終身助祭養成委員会にて検討し、必要であれば司教総会での審議に付すこととなった。

## 終身助祭の役割

終身助祭は「朗読奉仕」「祭壇奉仕」の選任を経て、助祭叙階の秘跡を受ける。終身助祭には二つのタイプがあり、一つ目は、社会人としての活動を継続しながら、週末だけ助祭奉仕を担う。二つ目は、専任で助祭奉仕を担う。どちらも司教の指示に従い、司教への従順が前提となる。助祭叙階の秘跡によって強められ、教会の中で「典礼奉仕」「み言葉の奉仕」や司牧生活の他に、教育事業、社会事業、福祉事業など社会経験を生かした「愛の奉仕」活動でも活躍。

## 終身助祭の任務

み言葉の祭儀の司式。聖体の分配。結婚式の立会いと祝福。葬儀の司式。ミサやみ言葉の祭儀で福音の朗読、説教、祭壇奉仕が任務。

## 過渡期助祭と司祭固有の任務

終身助祭と異なる過渡期の助祭とは、司祭叙階に至る前の段階で、助祭叙階をもって神学生を卒業となる。司祭叙階による固有の任務は、「ミサの司式」「ゆるしの秘跡」「病者の秘跡」の執行権限が付与される。

# 9年ぶりに訪問実現 宣教司牧の豊かな実りを願って

## 日本司教団 アド・リミナへ

司教団は4月8日から14日にかけてローマ・バチカンを訪れた。「アド・リミナ」とはどのような儀礼で、その意味と目的をなすのか、バチカンニュースから次のように引用した。



©Vatican Media

教皇フランシスコに訪問の挨拶をする司教団

●アド・リミナ (ad limina) とは、アド・リミナ・アポストロールム (Ad limina apostolorum) の略で、「使徒たち(聖ペトロと聖パウロ)の墓所へ」を意味する。この言葉は本来、ローマにおける使徒たちの墓を訪れるすべての信者たちの巡礼を指していたが、同時に、すべての司教が行うべき定期ローマ訪問を指すようになった。

全世界の司教がそれぞれ順番にバチカンを訪れ、教皇と出会い、地域の教会の状況や問題について報告するこの定期訪問は、基本的に5年に1度行われる。しかし、この間隔は実際には一つの目安であり、必ずしも5年ごとに行われるとは限らない。

ちなみに、今世紀に入ってからこれまでに、日本司教団のバチカンへの定期訪問は、2001年3月(当時の教皇:ヨハネ・パウロ2世)、2007年12月(当時の教皇:ベネディクト16世)、2015年3月(現教皇:フランシスコ)に行われている。(ホームページバチカンニュース(日本語)参照)

アド・リミナの様子はカトリック中央協議会のホームページで配信されています。 [こちら](#)



# 舞子墓園・とべら墓地の個人ご遺骨引取りのお願い

舞子墓園・とべら墓地でお待ちしていたご遺骨は現在、両墓園から大阪高松カテドラルの納骨堂に移し、骨壺のまま一時保管しています。

また、ご遺骨の預かりは現在中止しております。

ご遺族の皆さまには未納骨の案内をお送りしておりましたが、住所不明が多く連絡が取れておりません。

お心当たりがある使用者様、ご家族様は下記までご連絡ください。

\*大阪高松大司教区 本部事務局 総務課(墓地担当) ☎06-6941-9705



カテドラル納骨堂に一時保管中の骨壺

## <お問い合わせ>

カトリック大阪高松大司教区 本部事務局 青少年司牧委員会 代表 ☎: 06-6941-9700 \*平日9時~17時 メールアドレス: youth@osaka.catholic.jp

## <開催場所住所>

ヴェリタス城星学園 大阪市中央区玉造 2-23-26

\*募集人数は定員に達し次第、締め切ります。

## <主催>

カトリック大阪高松大司教区 青少年司牧委員会

## 青年と子どもの錬成会

ありのままでええねん!  
~神様からのプレゼント~

2024年 8月10日(土) ▶ 8月12日(月・祝)

開催場所 **ヴェリタス城星学園** 大阪市中央区玉造 2-23-26

- 参加費...6000円 ■ 募集人数...50人 (※定員に達し次第、締め切ります)
- 対象...小学3年生~中学3年生
- 申込締切...7月26日(金)まで
- 申し込み...「申込案内」を各小教区に配布いたします。

<お問い合わせ> カトリック大阪高松大司教区 本部事務局 青少年司牧委員会  
メールアドレス/youth@osaka.catholic.jp 代表電話/06-6941-9700 (平日9時~5時)

<主催>カトリック大阪高松大司教区 青少年司牧委員会





教区内の司祭が記憶に残る、また心に残った書籍を司祭紹介を兼ねて掲載。今回は、小山一終身助祭が担当。

小山一終身助祭からこの一冊

『完徳の道』 イエズスの聖テレジア著、東京カルメル会訳、ドンボスコ社、税込1,320円



若い人たちにとは限らないが、特に若い人たちは、聖人伝・偉人伝を広く読まれることを勧めたい。読書も一人の人の出会いの機会であり、得られるものが大きい。私の人生に大きな影響を与えた本という(過去形でなく現在も)アヴィラのテレジア(大テレジア)の『完徳の道』だろう。この本は大袈裟なタイトルと異なり、初心のキリスト信者にとってもキリスト者の霊的な歩みについて、非常に平易に説明して

くださっている。

私は大学1年の時に大テレジアの『創立記』という本をたまたま手にし、それがきっかけでこの本も購入したのだが、この2冊を通じて大テレジアを自分の実の姉と感じるほど親しく身近に感じてきた。その結果、教会というものやイエスさまという方をより深く存じ上げることになった。

別に司祭や修道者になろうと思つてなくとも、本気でキリスト教について学びたい、キリスト者として歩みたいと望むなら、ぜひこの本を勧めたい。宗教書・修徳書という狭い枠にとどまらず、人生を歩む中でいろいろと示唆されることが多いだろう。中学生でも読める本だが、人生のどのステージにおいても読む価値があり、自分の人生経験に応じて目覚めさせられるものがある。

次回は西川康廣(終身助祭)です。



小山一 終身助祭

< 終身助祭紹介 >

生年月日：1946年6月19日(現在77歳)
61年12月 六甲教会で受洗(中学3年生)
62年5月 コングレガチオ・マリアナ(日本聖母会)に志願(高校1年生)
64年 コングレガチオ・マリアナで終生奉獻
66年 CLC(コングレガチオ・マリアナが改組)に参加
80年4月 高松教区に移り成人信徒として深堀 敏 名誉司教・ウィリアムス師(オプレート会)から指導を受ける。
87年 第1回福音宣教推進全国会議(NICE-1)に高松教区代表として参加し発表。その後、信徒使徒職協議会で徳島地区代表を約10年務める。
2019年7月高松教区司教座聖堂で諏訪榮治郎司教より終身助祭に叙階。教区事務局長就任。

【職歴】

1975年 京都大学理学博士修了後、徳島大学医学部助教授(ウイルス学講座)、和歌山県立医科大学教授を経て2012年和歌山信愛女子短期大学学長に就任。16年香川大学医学部 客員研究員及び非常勤講師(分子微生物学)。現在に至る。

フィリピン総領事館



出張サービス in 香川



更新の事情をインタビュするフィリピン総領事館職員

大阪のフィリピン総領事館が3月23日(土)、香川県高松市カトリック桜町教会で、出張サービスを開催した。

この出張サービスは、香川県や近隣に暮らすフィリピン人のため、現地に向いて領事業務を提供するものです。具体的な業務としては、パスポートや在留資格の更新と言ったものです。フィリピン人共同体としては、今回改めてこの出張サービスのために場所を提供くださった、カトリック桜町教会に心より感謝申し上げます。

3年前にも、同様のイベントを開催させていただき、数百名のフィリピン人がお世話になりました。この出張サービスは、西日本の広範囲に暮らすフィリピン人たちが領事館のサービスを受けるためだけに大阪まで出向く負担を軽減するという目的のため、フィリピン総領事館がある程度主導して下さって実現しております。

(文 桜町教会 フィリピン人共同体 ジム クライーザ パブロ)



2024年4月21日(日)、酒井俊弘補佐司教と李昇倫神父の共同司式で堅信式が行われた。(受堅者12人)

夙川教会 堅信式 耳を傾けなさい

コロナ禍を経て久しぶりに行われた堅信式となった。手順を思い出し、式の流れを再確認しながら準備したが、全信徒の想いが一つとなり、喜びもひとしおだった。

酒井司教は福音の「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」(ヨハネ10・14)と言ふ言葉と、働き手を求める「世界召命祈願の日」であることも交えて話された。さらに「復活節が四旬節より長いのは、イエス様のご復活を長い時間をかけてかみしめるためです。イエス様は死から復活されただけでなく、今も生きておられる。私たちが共に生きてください。そして教皇様は『祈りとは神に語ることも、その声に耳を傾けること』によってなされる」と言っておられる。私たちは耳を傾けているだろうか。当教会の保護の聖人・幼きイエスの聖テレジアは、今あなたは何をしているかと問われたら『いつでも、私はイエス様を愛している』と答え

られるように努められた。堅信で聖香油を受けた私たちは、イエス様の香りをもつてこれからの人生を歩んでいけるように努めていきましょう」と説かれた。

【主権者の感想】

ミサの最後に、司教様から温かいお言葉とともに堅信証明書を授与された皆さんの、信仰への新たな決意に満ちた、晴れやかな表情が印象的だった。10代から60代まで今回受堅された信徒の方々が、これからの夙川小教区を支え、担っていただくことにも期待する。

【受堅者の感想】

「神様の平和の道具として働ける喜びを決して忘れず、日常の勉強や仕事を通して祈り続けたい」、「司教様と神父様の接手の際、お二人の手からは温めるような熱を感じた。代父様は肩に手を置くというよりしっかりと力を込められていた。お三方がその手を通して大事なものを伝えて下さっている」と、心動かされた。



鐘楼

教会紹介

- ◆ 守護 幼きイエスの聖テレジア
◆ 住所：西宮市霞町5-40
◆ 設立年月日 1921年10月1日

◆ ホームページ



◆ 特色 阪神間初のカトリック教会。ネオゴシック調の壮麗な外観とともに、美しいステンドグラスや鐘の音が人びとに心の安らぎと祈りの場を提供し、夙川のランドマーク的存在になっている。

◆ 歴史ある建築物に安住せず、一人ひとりの信徒が日々新たな気持ちで信仰を強め、深めていくことを目指している。

◆ おすすめの店

蕎麦の『以知川』、『馳走俵助』、イタリアンの『江坂』など。苦楽園方面へ歩けば『エルベラン』、『ミッシェルバツハ』など洋菓子のお店が多い。



現地からの報告

笑顔で暮らすことはできない

イスラエル在住 山崎智昭氏より

としあき

ガザ地区での戦闘が続き、終息が見えない状況のもと、イスラエルの人びとはどのように生活しているのだろうか。普通に生活しているように見えても、その裏側では戦争の足音に不安を覚え、笑顔で暮らすことのできない現状がある。イスラエル在住50年、キブツ（農業共同体）の正会員、イスラエル政府公認の観光ガイドをされている山崎智昭氏に、イスラエルの現状を寄稿していただいた。

戦争の流れの中で



このたび、大阪高松教区の教区報とご縁があり、イスラエルから、現地の近況を日本の読者の皆さまへお伝えしたいと言う主旨の原稿執筆の依頼を受けました。

イエス様の故郷、イスラエルが約2000年経過した現在、どのように進化しているのかお伝えするのは、嬉しさと難しさがあり、簡単ではありませんが、その一部でもお伝えできれば嬉しく思います。



テレビで随時状況が伝えられる

伝える難しさ

現在のイスラエルと言えば、聖地巡礼や、ビジネス、文化交流の楽しい話題よりも、残念ながら、いつも戦争やテロばかりの怖い話で埋め尽くされる報道が多くあります。そこで、筆者としては、どの領域に焦点を合わせてお伝えするかで、内容に大きな差が出て来る可能性があります。その辺のバランスを憂慮しています。今回は、それらの背景を考慮しながら、一般的な現実社会の構造をお伝えしようと思えます。

イスラエルとは

イスラエル総人口の20%がイスラエル国籍のアラブ人で、80%がユダヤ人のイスラエル国籍です。それに加えて、イスラエル周辺や、イスラエル国内に自治区と称されるパレスチナ人、アラブ人が住んでいます。

衝突の根源

イスラエルにおける戦争とは、周辺のヒズボラ組織、ガザ地区のハマス・テロ組織との戦争が主体です。この動きに関連して、小さな組織からテロ活動が繰り返す事件を起こしています。その根源は、聖地イスラエルは、イスラエルが統治するのではなく、アラブの世界が当地すべきだと唱える宗教組織が幾つか現存しています。その両翼がハマス組織とヒズボラ組織です。

不安を抱えて

2023年10月7日に勃発したハマスからの奇襲攻撃以来、約半年経過していますが、最終していません。それに同じくして、北のヒズボラ組織も、ハマス応援の意味も含めて、北の国境地域で戦争状態を継続しています。

ある日の出来事

北と南で戦争が続いている現状で、イスラエル国民は、どのような生活をしているのでしょうか。それは外見から見ると、普通の生活リズムに見えますが、その裏側では、目に見えない不安と対応する生活リズムが続いていて、心から笑顔で過ごすと言う状況ではありません。

戦争が激しかった頃のある日、私の4人の孫たち（2歳、4歳、6歳）を相手に遊んでいた時、いつものように空襲警報のサイレンがなりました。孫たちは、瞬時にシェルターに向かっ、足早に移動しました。その切り替えの俊敏性は、頭脳ではなく、反射神経で動いているのだと思います。シェルターに避難して、数秒後に猛烈な爆発音が頭上に響きます。6

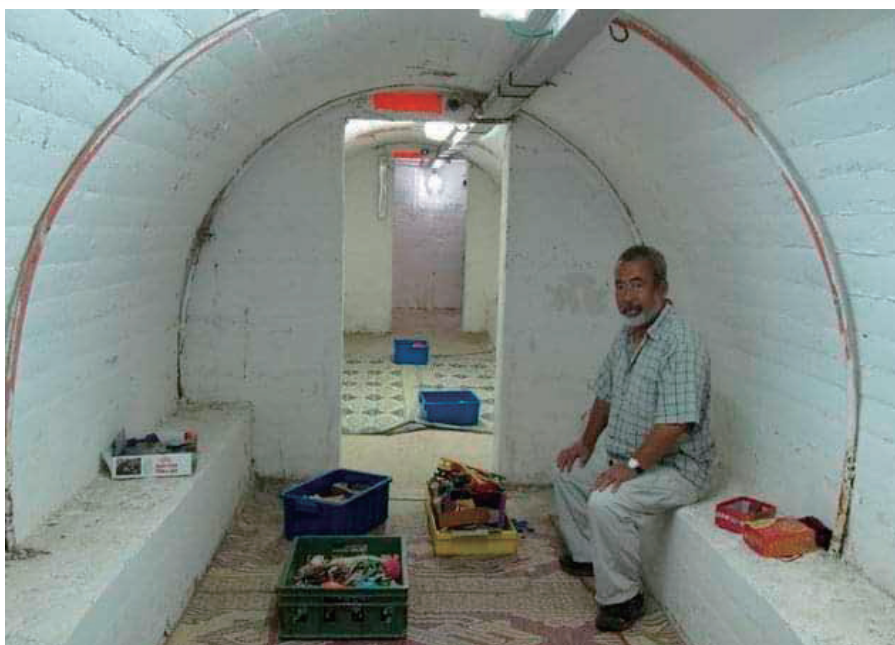


空襲警報のサイレン

平和を祈る

イスラエルの現状を、簡単に伝える事は到底無理ですが、一つだけ確かな事は、戦争当事国の双方で、静かで平和な日常生活に戻りたいと言う願いと祈り続ける事です。

(文・写真 山崎智昭)



お孫さんたちとシェルターに身をひそめる

山崎智昭さん 1945年生まれ。イスラエル人生50年目、キブツと言う農業共同体の正会員、イスラエル政府公認の観光ガイドなどを主体としている。イスラエルでも、日本でも、過去に新聞や雑誌、テレビ番組で幾度か取材を受け、メディアに登場した。その中でも「世界ナゼそこに?日本人」と言う番組では、山崎氏を取り上げたドキュメンタリーが30分枠で日本全国で放映される。長きにわたり、多くの巡礼者の案内人として現在も活躍されている。



# 小林聖心女子学院創立100周年記念

2023年11月17日(金)小林聖心女子学院講堂に前田万葉大司教・酒井俊弘補佐司教を迎え、**島基幸神父・永尾稔神父**、**和越敏神父・ジョバンニ デリア神父**による共同司式で創立100周年記念ミサが行われた。参加者は300人。



聖歌『さつきうるわしく』が斉唱される中、十字架を捧持した高2生徒を先頭に、高1生徒による四人の侍者に続いて司祭団が入堂。来賓や、聖心会関係者、卒業生、児童生徒・保護者代表、教職員などが参列した。

前夜来の強い風雨はミサが始まるころには上がり、本校の聖堂は百周年にふさわしい、晴れやかな中にも厳かな祈りの雰囲気が溢れていた。入堂行列では聖堂の高窓から陽の光が差し込み、祈りの場は明るい光に包まれた。100年にわたる小林聖心の歴史が多くの人たちの祈りに支えられ、この学校の教育活動の中心に「イエスとマリアのみこころへの信頼と祈り」が据えられていることを実感したひとときであった。ミサ参列者の歌声と祈りのことば、式典での高校2年生校歌斉唱は、小林の丘を明るく澄んだ空気で満たしていた。

8000人を超える卒業生を産み育てた本校が、これからの未来も日本の社会で「みこころの愛」の伝え手を育み、他者を思いやるこのとのできる人間育成の場であり続けることを強く願った。

ミサ中の説教で前田大司教では「聖心会の創立者、聖マグダレナ・ソフィア・バラや、初代学院長マザーマイヤーの教えと言葉を力に、誇りと使命を抱いて教育活動に携わってきた先人たちの働きの上にこの百周年がある。キリスト者が少ない日本社会での福音宣教にとって教育使徒職は崇高な手段であり、カトリック学校として、聖心の教育の本質を見失うことなくミッションを遂行して欲しい。これまで小林聖心に関わってくださった全てのかたの勤労に感謝し、これからのミッションへの勤労を願って『**聖心百寿や 勤労感謝の日**』と詠まれた。



講堂での記念式典には500人が参加。司会は卒業生のフジテレビアナウンサー **椿原慶子**さん。オーケストラの記念演奏や初代学院長マザーマイヤーの教えをテーマにした小学4年生の演劇、高校2年生の校歌斉唱があり、会場は大きな拍手に沸いていた。

## 学校紹介

創立者 **聖マグダレナ・ソフィア・バラ** (1779-1865年)は、教育のすべてを通して、真の礼拝の精神に生きる人を育てたいと望んで、聖心女子学院を創立しました。彼女が願ったのは、しっかりした知性と堅実な実行力、謙遜な心を備え、どのような時代にあっても、感謝と喜びのうちに人とともに生きることでできる賢明な女性の育成でした。「子どもたちが、本当の礼拝の精神に生きる人に育っていくよう教育すること、そのために私たちは生涯を捧げたい」。

一人ひとりが神の愛を受けた、かけがえない存在であることを知り、世界の一員としての連帯感と使命感を持ってより良い社会の構築に貢献できるような賢明な女性の育成をめざします。



## 創立者の言葉

私の心にはいつも二つの炎が燃えています。  
イエスの聖心に対する愛の炎と生徒に対する愛の炎です。

キリスト教的価値観に基づく全人教育を基盤に、賢明な女性を育てるべく12年間を3ステージに区分した4-4-4制のカリキュラムを導入。児童・生徒の発達段階を踏まえつつ、独自の教育課程で、確かな力を育みます。また、学年の垣根を越えての学び合いは、新しい発見や刺激があり、より実りのある学習を生んでいます。



## 「カテキズムの学び」

### 第51回 病者の塗油の秘跡

\*クラスは右のQRコードから



七つの秘跡はどれもが教会にとって必要なものですが、人生の大切な時に際して、繰り返し受けることができるのが病者の塗油の秘跡です。この秘跡は、新約聖書の箇所が起源となっています。

病者の聖なる塗油は、真の厳密な意味での新約の秘跡として、わたしたちの主イエス・キリストによって制定されました。この秘跡はマルコによる福音書(マルコ6・12-13十二人は出かけて行って……油を塗って多くの病人をいやした)にほのめかされており、主の兄弟使徒ヤコブによって信者に勧められ(ヤコブ5・14病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい)、公布されました。(1511番)

聖水ではなく聖別されたオリーブ油が使われるのは、当時は傷をいやすためにオリーブ油が常用されていたためです。

以前は「終油の秘跡」と呼ばれ、臨終の際に受けるものと受け止められていたため、かえって敬遠されていました。今は呼び名も変わり、どのような人が受けることができるのかについてこう説明されています。

病者の塗油の秘跡は危篤の状態にある人のためだけの秘跡ではありません。したがって、信者が、病気や高齢のために死の危険にある場合、この秘跡を受けるに適した時が来ていることは確かです。(1514番)

洗礼の塗油、堅信の塗油に続いて受ける病者の塗油は、信者としての人生を完成させるしるしです。

キリスト者の生涯の終わりのときの、ゆるしと、病者の塗油と、聖体(エウカリスチア)は、最後の旅路を支えるものとして一つにまとめられ、「祖国に入る準備の秘跡」、あるいは地上の旅路を完了する秘跡などと呼ばれています。(1525番)

今は若くて健康でも、必ず年はとるものであり、思いがけず病気になることもあります。そのような時のために教会が用意してくれている秘跡を受けたいと私たち自身や家族が望むことは、とても大切な心構えです。

(文 酒井俊弘補佐司教)

## 訃報

ベナンチオ水浦征男神父(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)は、4月10日、肺炎のため帰天。82歳。神戸市生まれ、長崎県五島出身。



1968年、司祭叙階。74年より関町修道院長、大神学校副校長、中央協議会広報委員長など歴任。皇ヨハネ・パウロ二世招聘に尽力、81年の来日時は報道担当者として活躍。85年より「聖母の騎士」編集長、聖母の騎士社代表。2

009年より8年間、信徒との交わりを心穏やかに楽しみながらも、上智大学新聞学科で学んだジャーナリストの鋭い視線を常に社会に向け続けた硬骨漢であった。

Sr 谷掛澄子(シヨファイユの幼きイエズス修道会)は4月25日、間質性肺炎のため帰天。90歳。兵庫県多紀郡出身。奉獻生活64年。



1960年初誓願宣立。

## カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪高松教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただくほか、インターネットでもご覧いただけます。

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部門 ☎06-6941-9705



大分の坂ノ市幼稚園の教諭、修道院長、1989年から21年間を大阪信愛女子学院小学校で、教頭、副校長として懸命に奉仕した。いつも明るく一人ひとりに愛をもって関わるシスターは子どもと保護者に慕われた。奉獻生活を全うし、御父の御許に旅立った。



# 来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

## 教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 6/27(木)18:30~20:00

講師 酒井俊弘補佐司教

場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり

主催 使徒職養成委員会

問 ☎06-6941-9700

## サクラファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 6/24(月)18:00~19:30 (夜の部)・6/25(火)10:30~12:00(昼の部)

お話 林和則神父(香里教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「使徒言行録における初代教会の生い立ちとミッション」

日時 6/24・7/8(月)13:30~15:00(4~7月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 6/12(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 6/14(金)・6/24(月)17:00~18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00~19:30

問 サクラ ファミリア

☎06-6225-8871

✉f.sacra@osaka.catholic.jp

## 結婚準備講座

夙川教会

日時 6/1(土)~6/22(土)4回 16:30~18:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 9/1(日)~9/22(日)4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

✉renraku@rokko.catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

## 黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 6/27(木)・6/28(金)10:00~15:30

指導 染野治雄神父(6/27) 山内十束神父(6/28)

参加費 ¥3,500

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00~12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

## 講座・研修会

日本カテキスタ会◆第7回大阪カテキズムを学ぶ会

講師 高見三明名誉大司教(長崎教区)

日時 6/27(木)13:00~16:20

場所 サクラ ファミリア

参加費 無料/自由献金

問 ☎090-3865-8010(栗山)

✉nckkate@gmail.com

部落差別人権活動センターシンポジウム◆主よ、いつまでですか

シンポジスト 袴田ひで子さん(袴田巖さんの姉・再審公判保佐人)・門間幸枝さん(無実の死刑囚・袴田巖さんを救う会副代表)

日時 6/29(土)14:00~16:30

場所 サクラ ファミリア

参加費 無料

主催 大阪高松教会管区部落差別人権活動センター

問 ☎075-223-3340

✉bukatu@kyoto.catholic.jp

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

## 集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える

15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00

場所 大阪YCWセンター(またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エッファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。

日時 毎月第2(水)10:00~12:00

場所 教区本部事務局

1階会議室

主催 要約筆記グループ

“エッファタ!”

問 障がい者委員会

✉dis@osaka.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合いいつ来てもウエルカム当日キャンセルOK

日時 毎月第3(日)14:00~16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

力障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のあ

るかた、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 毎月第2(火)13:30~15:00

場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

手話に興味をお持ちの方へ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください

内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)10:00~14:00

場所 姫里集会所

主催 教区聴覚障がい者ボランティア会

問 障がい者委員会

✉dis@osaka.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:00~14:30

問 佐藤 ☎079-435-1157

## 【お詫び】

5月号1面 日本神学院再出 発文中4段後ろから3行目 「これは養成にとって大きな変化で、助祭団が神学院からなされるようになる。」を削除 8面 主日ミサ時間変更(5月~10月末) 岬教会 8時30分→10時30分に変更 熊取教会 10時30分→8時30分に変更 お詫びし訂正します。(広報委員会)

ひとりで悩まないで ~私たちに聴かせてください~

カトリック大阪高松教区

**ハラスメント相談窓口**

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間

月・火・金曜日(祝日を除く)

午前10時~午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

大阪のカトリック病院

**ガラシア病院**

特徴的な医療

ホスピス・糖尿病内科  
リハビリ・神経内科  
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会

理事長 前田万葉 大司教  
チャプレン 松本信愛 神父

看護師 募集中

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1

☎072-729-2345

医療法人ガラシア会

行事等日程	
6月	
2日	日 キリストの聖体
6日	木 [常任司教委員会]
7日	金 イエスのみ心
8日	土 聖母のみ心
10日	月 教区司牧者研修会(~11日迄)
23日	日 聖ペトロ使徒座への献金
24日	月 洗礼者聖ヨハネの誕生
29日	土 聖ペトロ 聖パウロ使徒パウロ酒井俊弘補佐司教霊名
30日	日 14時 教区宣教司牧評議会
7月	
1日	月 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
4日	木 [常任司教委員会]
10日	水 10時 顧問会・責任役員会 13時半 司祭評議会

▽072148916601

【岬教会】電話・FAX設置

案内・報告

**6月司教予定**

(左記「行事等日程」以外)

- 6/2 香里教会堅信式(+S)
- 6/4 女子総長管区長総会ミサ(+S)
- 6/7 女子総長管区長総会閉会ミサ(+M)
- 6/9 吹田教会堅信式(+S)
- 6/9 ドミニコ会助祭叙階式ミサ(松山)(+M)
- 6/13~25 ファチマ・サンティアゴ巡礼(+S)
- 6/30 芦屋教会堅信式(+S)

+M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教

強さは正義で弱さは悪なのか、と思うことが時々ある。もちろん主は、弱さを誇りなさいと教えているので私もそのみ言葉を信じている。しかし現実には、やっぱり強者賞賛の価値観と思わされる場面に出くわすことがあり、何とも言えない気分になる。

福祉の仕事させてもらっている、個々の命の輝きに出会う場面がある。それこそが、本当に大切にしなければならぬものである。最も価値あるものではないだろうか。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるという主の教えを、日々の仕事を通じ実現していきたいと思う。

(徳島地区 伊丹隆司)

リスナーの方 募集中!

**小さきテレジアの会**

「大阪高松教区報」を音訳し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々に送っています。データCDは、プレストーク・パソコン・MP3対応のCDラジカセで聞くことができます。

音訳というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。

問合せ 夙川教会小さきテレジアの会

☎ 0798-22-1649

Fax 0798-34-3585

担当: 音訳(ディジー)山口

ナウンサーのイメージです。